

限られた時間をどう生きるか

盛岡市立高等学校 2年 玉山大喜

私たちは普段、「時間がない」「時間が早く過ぎる」と何気なく口にする。しかし、時間は誰にとっても同じように流れているはずなのに、長く感じる時もあれば、あっという間に感じる時もある。私は、自分の生活を振り返る中で、時間の価値は「長さ」だけでは決まらないのではないかと考えるようになった。

特にそう感じたのは、学校生活である。授業中、興味のない内容を聞いている時には、時計を見るたびに「まだこんな時間か」と感じる。しかし、友達と話したり、好きなことをしたりしている時は、気がつくとも休み時間が終わっている。この経験から、時間そのものの速さが変わっているのではなく、自分がその時間をどう過ごしているかによって、時間の感じ方が変わるのだと気づいた。

また、学校行事や友達との出来事を振り返ると、その時は当たり前だと思っていた時間が、後から考えると大切な思い出になっていることにも気づく。例えば、友達と何気なく話したことや、一緒に笑ったことは、その瞬間には特別なことだとは思わない。しかし、時間がたってから振り返ると、「あの時は楽しかった」と思える。だからこそ、何気のない一日にも、その時にしかない価値があるのだと思う。

では、時間を大切にすることは、できるだけ多くのことをすることなのだろうか。私は、そうではないと思う。予定を詰め込み、常に何かをしていれば、時間を有効に使っているように見える。しかし、忙しさのみを求めてしまうと、一つ一つの出来事を振り返る余裕がなくなってしまう。反対に、何もしない時間の中にも、考えを整理したり、心を落ち着かせたりする大切な意味がある。

また、時間には当たり前に「取り戻せない」という特徴がある。失った物なら、努力してもう一度手に入れられる場合がある。しかし、過ぎてしまった時間をやり直すことはできない。だからこそ、私は「後でやればいい」と簡単に先延ばしにするのではなく、今できることを少しずつ行うことが大切だと考える。例えば、勉強を後回しにして遊んでしまった経験は誰にでもあると思う。後になって焦るくらいなら、最初に少しだけ取り組んでおけば、残った時間をより安心して使うことができる。

時間は、誰にでも平等に与えられている。しかし、その使い方や感じ方は人によって違う。私はこれから、時間を単に「過ぎていくもの」と考えるのではなく、自分自身の成長を促したり思い出をつくるためのものとして考えていきたい。限られた時間だからこそ、一日一日を大切にし、その時にしかできないことを見つけていくことが、時間を本当に大切にすることなのだと思う。